

“Such as 構文に就て”

鏑 木 光 朗

And away towards the east I saw a faint haze of light upon the horizon, such as had been the Milky Way when I was last awake. (R.L. S.-Travels with a donkey p. 99) ……(1)

以上の文に於ける such as に就て今から問題にして見ようと思う。上文に於ては、such as の前と後に夫々文があるので、such as は二つの文を結びつける詞所謂Connectives (連関詞)として考えられるが、such as の前に comma のあること、such as の後に主語にあたる詞が無く、直接述語のある点を考えると、単なる connectives とも考えられないので、更に調べて見る必要があるように思われる。そこで一先ず、such as の場合の such と as について考えて見よう。such は普通 as と結びつすが、その場合 such には Adjective (形容詞)として用いられる場合と、Pronoun (代名詞)として用いられる場合との二通りある。それでは such as に於ける such は何れの場合であるか。今それを考える前に such につき C. O. D. により調べると、種々な意味があるが、最後に such as の項を見ると、次の如くなつてゐる。即ち、such as=those who (chiefly archaic or poet, or rhet;) ex. such as sit in darkness. (C. O. D.)

又斎藤秀三郎著熟語中辞典を見ると、(such as の項) such as=those who;—ex. Such as have plenty of money will not want for friends. となつてゐる。以上二つの場合とも such as=those who~となつてゐる。それでは(1)の文の such as も those who であろうか。否寧ろ(1)の文の such as は such a faint haze of light (such a thing) as と考えられる。即ち(1)の場合の such は Demonstrative Pronoun (指示代名詞)であり、as は Relative Pronoun (関係代名詞)ではないかと思う。such as に於ける such と as については、E. A. [Sonnenschein は其の著 ‘A New English Grammar’ Part II p 15.85(e)に於て、次の如く述べてゐる。即ち、

Demonstrative Pronouns.

The word demonstrative means ‘Pointing out’

The demonstrative Pronouns are—such (=of the kind, or of that kind) ex. The Piper revenged himself on all such as injured him. / Kings are constituted such by law. (‘such’ =kings) 又同著 Part II p16—17. 90(h)に於て、

The relative Pronouns are—as, indicating a thing (or things) or sometimes a person (or persons) :

ex. He blew such sweet, soft notes as musician’s cunning never gave the enraptured air. (‘as’=which, or the like of which : object of ‘gave’) となつてゐる。以上に依つても分るやうに、Sonnenschein は such as に於ける such を demonstrative pronoun とし、as を relative pronoun として考へてゐる。此の考へは、前述の私の考へと一致するやうに思ふ。ただ後者の such as の場合の例は、(1)の such as の

場合と異り, such の後に Noun (名詞) があり, as の後に主語のある文が来ているが, (1)の場合と構文に於ては同じであると言えると思う。では其の他の学者の意見は如何であらうか。

先ず Jespersen はその著 *Essential of English Grammar* p364 34.4₇に於て次の如く述べている。即ち,

As is used as a connective (relative) particle after the same, such, so and as :
ex. Let me have men about me, that are fat, Sleeke-headed men, and such as sleepe a-nights (Sh) He was such a listener as most musicians would be glad be glad to welcome.

Jespersen に依れば such as の場合の as を connective (relative) particle として考えている。此の particle とは, 同著の別の個處で (p68. 7.51. Particles) Adverbs, Prepositions, Co-ordinating Conjunctions, Ssbordinating Conjunctions であると述べているが, 此の中の Co-ordinating Conjunctions のことを指しているものと思う。即ち Jespersen は such as の as を Co-ordinating Conjunction と考えているのである。

此の考えと同様なことを G. O. Curm がその著 “Syntax” p168. 19If に於て次の如く述べている。即ち Explanatory Coördinating Conjunctions, connecting words, phrases, or sentences and intraducing an explanation or a particularization ; namely, to wit,……such as, as, like, for example, for instance, say, let us say.
ex. She possessed certain definite beauties, such as (or simple as, or like) her hair. / The mistletoe grows on various trees, such as oakes, poplars, birches.
之に依つても分るように, curm は such as の場合の as は勿論のこと, such as 全体を明らかに Coördinating Conjunction として考えているのである。以上 Jespersen も Curm も共に, such as の as を Conjunction として考えている。此の二人の考えは前述の relative pronoun としての考えと異なるが, 一体何れが正しいのであろうか。此の二人の場合の例文を見ると, 何れも such as の後に noun だけを伴っているので, (1)の場合の後に sentence (文) を伴つた場合とは明らかに異なる。

即ち, noun を後に伴う場合は as を, 又 such as 全体を conjunction として考えても文法上説明出来るが, (1)の場合のように as の後に述語を伴つた場合は如何であらうか。conjunction であれば, その後に主語と述語のある文が来なければならぬし, 若しも主語を略したのであれば, 動詞の -ing 形が来なければならぬと思う。例えば,

While reading the book, I was thinking of him.

従つて, Jespersen と Curm による Conjunction 説は, such as の後に noun だけを伴う場合は説明出来るが, (1)の如く文 (特に主語の無い文) を伴う場合は説明出来ないと思う。即ち, (1)の場合の as 又は such as は conjunction として考えるのは正しくないと思う。それでは前述した如き relative pronoun としての説は如何であらうか。今から此の説について, 更に他の学者の意見を調べて見ようと思う。

Treble and Vallins の *A. B. C. of English Usage* に依ると「such は same と同様に関係代名詞を伴わず, relative (関係詞) の機能を有する as を伴う」と言い, 例文, It was such a day as we rarely see in England. (not ‘such a day which.

一') ;Unto bad causes swear such creatures as men doubt. を挙げて、第二の例文に於ては such は指示代名詞に等しいとしている。(such as=those whom) 又同じ著書の159頁に於て、same~as の項で次の例文を挙げている。即ち、that is the same street in which I lived for five years. ('as I lived in')

以上に依つても分るように、Treble と Vallins とは such~as に於ける as を完全に relative pronoun とは考えず、relative の機能を有するものとしているが、同じ性質の same が which を伴う例文や、such as=those whom の例文を挙げているところを見ると、as を conjunction とは考えず、relative pronoun と同じ機能を有するものと考えているようである。更に現在の用法に於ては、such~as に於ける as は明らかに関係代名詞として用いられている。

研究社の The Concise English-Japanese Dictionary に依つて such~as の項を見るのと次の如くである。

Such~as— (asは関代) [as~, that一と相関的に用いて] ex. Such poets as Keats are rare.=Poets such as (=like) Keats are rare. / Children such as these will never learn anything. / Such accidents (as these) cannot be helped. / I said no such thing. (as that) / I am not such a fool (=so foolish) as to believe that. 以上を見ても分るように、現在では such~as, such as~ の as は明らかに関係代名詞となつてゐる。現代文法で as を関係代名詞としている以上、such as の as を関係代名詞として考えるのは当然であると思う。それ故、元に戻つて例文(1)に於ける such as の as も関係代名詞として考えようと思う。若し之を Curm や Jespersen の如く conjunction として考えるならば、as 以下に於ける主語の無いことの説明が出来ないし、as を主格の関係代名詞と考え、such を其の先行詞と考え、前文の a faint haze of light (upon the horizon) を指すと考え、such は指示代名詞で such one (thing) と考えて少しも文法的に差支無いのではないかと考えるからである。では次の如く such as の後に noun を伴う場合は如何であろうか。即ち、And all modern aids to teaching, such as foreign motion pictures, phonograph records, radio and other devices, are utilized wherever possible. (High School English Book II p95) ……(2)

上文に於ては、such as の後に noun を伴うので、此の場合は前述の如く such as を for example の意味を持つ Coördinating conjunction として考えても正しいようであるが、此の場合も such as …… devices (are) となり、be 動詞が後に省略され、such は all modern aids to teaching を指す代名詞であり、as の先行詞であり、as は後文の are の主格補語 (Subjective Complement) となつてゐると考えようと思う。以上の如くにして、as は明らかに関係代名詞と言へると思う。今迄種々と多くの文法家達により、as を relative (関係詞) としての機能を有しながらも関係代名詞と呼ぶのをためらわせたのは、who, which, that の如き普通の関係代名詞と異つて、as は such 又は same の如き特殊な指示代名詞とのみ連関する点と、その形に、他の関係代名詞の如く主語、所有格、目的格の如き明らかな形を有しない点との二点があるためではないであろうかと思うのである。然しながら、as は他の関係代名詞と同様に先行詞を有し且つその後に伴う文に於て文法上の役目(主語、目的語、補語)を有するのであつて、as は所有格を持たなくても、主格と目的格が同形であると言えるのである。このことは例えば他の関係代名詞 which の目的格が which であり、that は所有格がなくて、目的格も that であることを考えれば何等不思議ではないと思う。以上の点から考えても as を関係代名詞と考へて何等差支無いと思う。繰り返して述べると、例文(1)に於ても、又例文(2)に於ても即ち such as ~ の場合は、such as の後に noun を伴う場合に於ても又、文を伴う場合に於ても、何れの場合に於ても such を其の直前の noun を指す指示代名詞であり、as を such の先行詞とする関係代名詞であると考えて良いと思う。現在関係代名詞としての 'as' の用法があり、以上の如く文法上も説明出来るとすれば、such as 構文に於ける as を関係代名詞と考へて何等差支無いと思うのである。